

## 第2回富山県アルコール健康障害対策関係者会議結果

1 日 時 平成29年10月2日(月) 19:00～20:30

2 場 所 富山県民会館702会議室

3 出席者 委員11名(1名欠席)

4 進 行

(1) 開会

(2) 挨拶(大橋 厚生部次長)

(3) 委員紹介

(4) 議事

富山県アルコール健康障害対策推進計画(案)について

(5) 閉会

### 5 会議結果

吉本 博昭 会長の進行のもと議事が進められた。

#### 主な意見

##### ◆未成年者の飲酒に関する意見

- 飲酒以外の娯楽が多く生まれたこと、上司とのお酒の付き合いを断る人が増えたことなど、社会の変化に伴って若者の飲酒量は減っている。
- 未成年者がお酒を飲んだきっかけとして、「祭りや行事」と回答する人が多い。未成年者の飲酒における1番の問題は家庭にあり、大人はこの事実を受け止めなければならない。
- お酒は日本の伝統と文化に密接したものであり、この部分に取組むことは非常に難しい。教育の現場において、生徒に飲酒の害について積極的に伝えていってもらいたい。
- 生活習慣に関する情報を集約することは難しく、アルコールの場合は頻度、量、種類の問題があるため、出来るだけ単純な指標で経年変化が追えるものを使うことが重要視される。そういう意味では「過去30日間に1回以上の飲酒」という指標はよく使われているものであり、特に問題はない。ただ、注釈にて質問の定義について明確に示すべきである。

##### ◆青少年健康づくり意識調査に関する意見

- 平成24年以降、未成年者の飲酒に係る調査は実施されておらず、その期間の状況がわからない。
- 未成年者の飲酒率については、調査を実施する時期に留意が必要。行事の多い正月であれば値が高くなることが予想される。
- 数値というものはそれだけで判断できない面がある。例えば、アルコール依存症者の通院者数([資料3] 6ページ 表7)に関しては、あくまでも自立支援医療を利用して通院している人の数にすぎない。実際、アルコール依存症は否認の病気であり、重症にならない

ければ自立支援医療は使わない。

#### ◆数値目標に関する意見

○意味のある計画にするためには富山県の実情を踏まえた内容を盛り込むことが必要である。

#### ◆富山県の特徴に関する意見

○富山県は北陸3県の中で唯一「ダルク」がある。これは富山県の強みとなる特徴である。

#### ◆クロスアディクション※に関する意見

※クロスアディクション：2つ以上の依存症を併発していること、次々と依存対象が変わっていく依存症のこと

○アルコールの場合も、タバコの場合も背景には共通のものがある。タバコを吸っている人について調査したところ、「教育年数が短い人」、「所得が少ない人」、「肉体労働の人」が多く、また「家庭や仕事において何らかの問題を抱えている人」の割合も高い。逆に、タバコをやめた人はその逆のパターンとなっている。従って、背景から表出したものが人によって、アルコール、タバコ、ギャンブルという形で異なるだけ。よって、社会的に何らかの問題を抱える人は、さまざまなアディクションになりやすい。

○今回はアルコール健康障害に焦点をおいた計画であり、他のアディクションについて詳しく触れる必要はないと思うが、委員や関係者は当然クロスアディクションについて知っていることを表現に加えたほうが良い。

○今年の5月に厚生労働省が青少年のネット依存と飲酒問題の関連について、飲酒日数が多くなればなるほどネット依存的割合が高まるとの調査結果を示している。よって、依存症の関連をしっかりと押えておくことが大切である。

#### ◆初期依存症患者への対策に関する意見

○アルコール健康障害対策基本法が作られた背景には、これまで重度のアルコール依存症患者しか医療に繋がっていなかった現状があったため。これからは、重度の依存症になる前のアルコール健康障害に対しても対策を強化することが必要である。

○これからは早期発見早期治療の時代であり、精神科に繋げる必要のある重傷者以外の早期の患者については、内科医で初期介入として指導をきちんと行っていただきたい。

#### ◆関係機関との連携体制に関する意見

○患者に服薬指導を行う際や、検査結果について相談された際に「アルコールをやめられない。」と話す人は多い。このような方への対応として、認知症の連携パスのような連携システムやセミナーがあれば良い。

○医療機関の受診を促してもなかなか聞き入れてはもらえないが、経済的な問題を切り口に相談対応する中で、アルコールの問題にも関わっていくということはあるように思う。そういう意味では「相談しやすい」輪を関係機関の中で広げていくことが必要と感じる。

◆相談拠点の啓発に関する意見

○CM やラジオ、SNS などを活用した普及啓発、富山県を舞台として撮影された映画「カノン」の上映会と合わせて相談会等を開催するといった取組みも良い。

○今年、広島県において初めて県と共催という形で、全日本断酒連盟全国広島大会が開催された。富山県としても大々的に普及啓発活動を行っていただきたい。